

第6回食育活動表彰 受賞者インタビュー

2022年5月12日発行

中国四国農政局

消費・安全部
消費生活課

(令和4年3月30日撮影)

農林水産省は、ボランティア活動、教育活動、農林漁業、食品製造・販売等その他の事業活動を通じた食育関係者の取組を対象として、その功績を称えるとともに、その取組の内容を広く国民に周知し、食育を推進する優れた取組が全国に展開されていくことを目的として、「食育活動表彰」を実施しています。

今回は、新型コロナウイルス感染症の影響による社会環境変化に*DXで対応する「ぎょしょく教育」に取り組み、「第6回食育活動表彰」において消費・安全局長賞を受賞された愛媛県の「愛南町ぎょしょく普及推進協議会」の活動をご紹介します。

*DX（デジタルトランスフォーメーション）：デジタル技術による変革

「真鯛の3枚おろしに挑戦」を制作 ～アプリケーションを使った疑似体験～ 愛南町ぎょしょく普及推進協議会

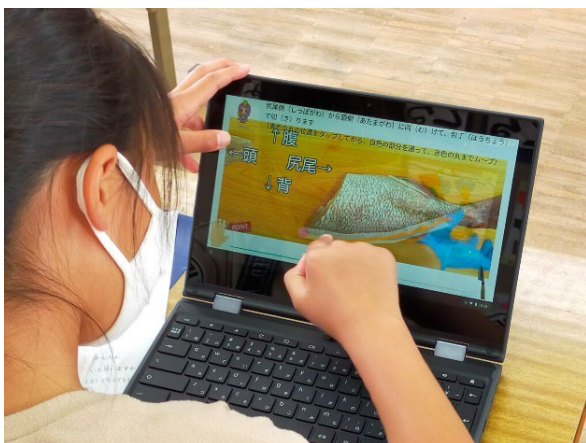
愛南町ぎょしょく普及推進協議会の事務局担当で、愛南町水産課の清水貴光さんにお話を伺いました。

農政局：「ぎょしょく教育」を始めた経緯を教えてください。

清水さん：平成16年頃、愛南町の主要産業である漁業は、魚価の低迷、燃料や工サの価格高騰等に伴い、生産が減少していました。愛南町内外の小・中学校等で魚の生産から消費、文化に関する教育を実践し、水産物の消費拡大及び担い手の誘致・育成を図るために、平成17年に漁協、漁業者及び教育行政機関で組織する協議会を設立しました。



小学校でのアプリケーションを使った授業の様子



アプリケーションを使って真鯛を捌(さば)いてみよう！

農政局：どういったきっかけで「3枚おろし体験アプリ」を開発することになったのですか。

清水さん：愛南町の真鯛は人工種苗を使った完全養殖であり、持続可能で安全安心な養殖魚の生産に取り組んでいます。この養殖は、SDGs宣言をして、その達成に積極的に取り組む生産者と漁協、自治体、大学が連携して、魚病による被害を低減するために魚病診断をしたり、漁場環境の把握のために水質、底質調査を定期的に行ったりして実現しています。これらの取組をぎょしょく教育の出前授業等でわかりやすく伝えるためのDXの一つとしてアプリケーションによる「真鯛の3枚おろしに挑戦」を制作しました。



リモートによる遠隔授業での「魚のおろし方」の撮影風景



ちりめんモンスターをさがせ
(ちりめんじゃこの選別)



タッチプール、「魚触(ぎょしょく)体験」

農政局：今後の展開をお聞かせください。

清水さん：「真鯛の3枚おろしに挑戦」というアプリケーションは、真鯛という地域資源を活用した教材です。このような地域資源を活用した教材は、その地域でしか制作が困難であるため、今後も地域の資源を活用したDXを推進していきたいと考えています。

農政局：コロナ禍において、「ぎょしょく教育」はどのように変化していききましたか。

清水さん：新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年3月から調理実習や対面授業が困難な状況になりました。

令和2年度は遠隔授業を実施したり、魚のおろし方や調理方法を動画にしてYouTubeで公開したりしました。また、そのレシピは、クックパッドへも掲載しました。

令和3年度には、制作した動画を活用して真鯛を3枚におろす疑似体験ができるアプリケーション等も制作して、社会環境等の変化に対応しながら「ぎょしょく教育」を実施しました。

農政局：活動を通じて、どのような成果や反響がありましたか。

清水さん：これまでの「ぎょしょく教育」は特定の人や時間、場所でしか行えませんでした。DXにより人や時間、場所を限定することなく多くの方がぎょしょく教育を享受できる環境になってきています。

「ぎょしょく教育」の出前授業等でわかりやすく伝えるためのDXの一つとして制作した「真鯛の3枚おろしに挑戦」アプリケーションは、海外からもダウンロードされたり、子供たちが、ひとりで何回でも疑似体験を行うことができ、「本物の鯛をおろしてみたい」という興味を引き出し、学びにつなげています。



愛南町役場HP
愛南町ぎょしょく普及
推進協議会URL

【お問い合わせ先】

中国四国農政局 消費・安全部 消費生活課

〒700-8532 岡山市北区下石井1-4-1

TEL (086) 224 - 9428 (直通)

<農政局HP> <http://www.maff.go.jp/chushi/index.html>